

町立小学校施設について

About Town elementary school building

上牧町学校適正化協議会

令和8年1月

目次

AJENTA

01. 小学校施設概要

02. 小学校施設の目指すべき方向性

03. 小学校施設の状況

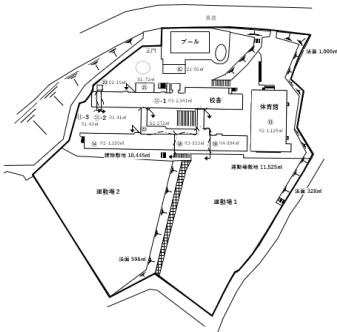

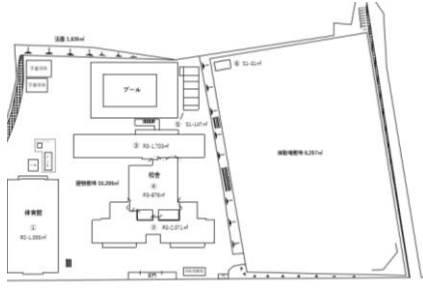
04. 維持管理に関する考え方

05. 将来の見通し

06. 総括

01. 小学校施設概要

町立小学校施設の概要は、以下のとおりです。

学校名		上牧小学校	上牧第二小学校	上牧第三小学校
平面図				
敷地面積		23,894㎡	20,462㎡	20,297㎡
運動場面積		11,525㎡	7,345㎡	8,257㎡
延床面積	校舎	6,598㎡	7,704㎡	4,828㎡
	体育館	1,125㎡	1,052㎡	1,000㎡
建築年度（※1）	校舎	昭和46年度（1971年度） 昭和47年2月築	昭和46年度（1971年度） 昭和46年11月築	平成9年度（1997年度） 平成9年5月築
	体育館	昭和49年度（1974年度） 昭和50年3月築	昭和49年度（1974年度） 昭和50年3月築	平成8年度（1996年度） 平成9年3月築
長寿命化対応	校舎	×（築50年以上経過し、長寿命化の効果が見込めないため）	×（築50年以上経過し、長寿命化の効果が見込めないため）	令和19年度（2037年度）
	体育館	×（築50年以上経過し、長寿命化の効果が見込めないため）	×（築50年以上経過し、長寿命化の効果が見込めないため）	令和18年度（2036年度）
長寿命化をした場合の残存年数（※2）	校舎	-	-	52年
	体育館	-	-	51年
健全度（※3）	校舎	49点	53点	68点
	体育館	51点	60点	66点

（※1）校舎の建築年度は棟別に異なるため、延床面積1,000㎡以上の棟のうち、最も古い棟の建築年度を記載。

（※2）建築後40年時点で長寿命化、60年時点で大規模改造を実施した場合の残存年数。（令和7年度時点）

（※3）健全度は令和7年度時点。

02. 小学校施設の目指すべき方向性

小学校施設は児童の学習や生活の場であり、令和4年3月に改訂した「上牧の学び推進プラン」などで目指す教育内容の実現を環境面から支えることが求められます。また、地域の防災拠点・避難所としても重要な役割を担っています。

このような学校施設の役割を果たすため、以下の方向性を踏まえた施設整備が必要であると考えます。

安全・安心な教育環境の確保

- 構造躯体、屋上・屋根、外装、内装、設備機器等の老朽化対策
- 防災、防犯機能の充実

教育の質を高めるための教育環境の確保

- 様々な学習形態に対応できる教育環境の確保（特色ある教育、ICT教育等への対応）

社会・生活環境の変化、地域ニーズ等への対応

- 空調設備の充実、トイレ等衛生環境の改善、避難所機能の充実
- ユニバーサルデザイン、省エネルギー化
- 自然環境への配慮（木質化、自然採光など）

03. 小学校施設の状況

上牧町では、小学校3校、計35棟を保有していますが、そのうち建築後40年以上を経過している施設は25棟、うち50年以上経過している施設は9棟あるなど、施設の老朽化対策が喫緊の課題となっています。

また、施設の老朽化状況を把握し、適切かつ計画的に対応するため、「上牧町個別施設計画」において、毎年度「施設の健全度」の評価・見直し等を行っています。

「健全度」の計算方法

屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備は各部位の目視点検、または、定期点検による劣化状況を基本にA、B、C、Dの4段階で評価します。

それぞれ、部位の評価配分を定め、施設の劣化状況による評価点として、80点満点で算定しています。加えて、施設の経過年数（減価償却率）を基本に躯体に係る評価点として20点満点で算定し、合計100点満点で施設の健全度を算定しています。

劣化状況による評価（80点満点）

【屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
A	概ね良好
B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
D	早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題あり） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し施設運営に支障を与えている）等

経過年数による評価（20点満点）

【躯体】

評価
$\frac{(\text{耐用年数} - \text{経過年数})}{\text{耐用年数}} \times 20 \text{点}$
※経過年数が耐用年数を超えている場合は0点

区分	満点 (80点)	A評価 (100%)	B評価 (75%)	C評価 (45%)	D評価 (10%)
屋根・屋上	6.8	6.8	5.1	3.1	0.7
外壁	23.0	23.0	17.3	10.4	2.3
内部仕上げ	29.8	29.8	22.4	13.4	3.0
電気設備	10.6	10.6	8.0	4.8	1.1
機械設備	9.8	9.8	7.4	4.4	1.0

内部仕上げ…床、内壁、天井、内部建具、間仕切り、照明器具、空調設備等
電気設備…分電盤、配線、昇降設備等
機械設備…給排水設備、消防設備等

（出典）上牧町個別施設計画

03. 小学校施設の状況（上牧小学校）

屋根については、平成28年度に給食室、令和元年度に北館の屋上防水工事を実施しており、11号棟は良好な状態を保っています。外壁については、比較的美観を保っているようにみえますが、特定建築物定期調査では、外壁躯体の劣化・損傷、モルタルの浮きなどが確認されています。内部仕上げについては、平成30年度の空調設備整備工事の実施等の影響により、B評価が多いものの、床、内壁、天井、建具などは劣化が目立っています。電気設備、機械設備ともに大半がC評価となっており、経年劣化による不具合等が目立っています。

(単位：㎡、年度、年)

No.	建物（棟）名称	延床面積	構造	建築年度	耐用年数	経過年数	評価点											合計
							経過年数	部位部外による評価点										
								屋根	外壁		内部仕上げ		電気設備		機械設備			
1	11-1号棟	2,941.00	RC	S46	47	53	0.0	A	6.8	C	10.4	B	22.4	C	4.8	C	4.4	49
2	11-2号棟（給食室増築部分）	43.00	RC	S55	47	45	0.9	A	6.8	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	63
3	11-3号棟（給食室増築部分）	41.00	RC	H01	47	36	4.7	A	6.8	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	67
4	13号棟（体育館）	1,125.00	RC	S49	47	50	0.0	C	3.1	C	10.4	B	22.4	B	8.0	B	7.4	51
5	14号棟	1,190.00	RC	S51	47	48	0.0	B	5.1	C	10.4	B	22.4	C	4.8	C	4.4	47
6	15号棟（プール専用付属室）	56.00	S	S51	38	48	0.0	C	3.1	C	10.4	D	3.0	C	4.8	D	1.0	22
7	18-1号棟	829.00	RC	S55	47	45	0.9	B	5.1	C	10.4	B	22.4	C	4.8	C	4.4	48
8	18-2号棟	104.00	RC	S55	47	45	0.9	B	5.1	C	10.4	B	22.4	C	4.8	C	4.4	48
9	19号棟	994.00	RC	S57	47	43	1.7	B	5.1	C	10.4	B	22.4	C	4.8	C	4.4	49
10	20号棟（児童昇降口）	40.00	RC	S57	47	43	1.7	B	5.1	C	10.4	B	22.4	C	4.8	C	4.4	49
11	21号棟（児童昇降口）	72.00	S	S57	38	43	0.0	B	5.1	C	10.4	B	22.4	C	4.8	C	4.4	47
12	22号棟（渡り廊下）	272.00	S	S57	38	43	0.0	B	5.1	C	10.4	B	22.4	C	4.8	B	7.4	50
13	23号棟（倉庫）	16.00	S	S57	38	43	0.0	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	60

03. 小学校施設の状況（上牧第二小学校）

当該校舎は陸屋根であります。屋根に大きな劣化はみられません。外壁については、各所でクラックが発生しており、一部爆裂の発生も確認されているほか、特定建築物定期調査では地盤沈下による不陸も確認されています。内部仕上げについては、建具に劣化がみられるものの、平成30年度の空調設備整備工事の実施等の影響により、B評価が多くなっています。電気設備、機械設備ともに大きな劣化はみられません。

（単位：㎡、年度、年）

通番	建物（棟）名称	延床面積	構造	建築年度	耐用年数	経過年数	評価点											合計
							経過年数	部位部外による評価点										
								屋根		外壁		内部仕上げ		電気設備		機械設備		
1	1-1号棟	1,738.00	RC	S46	47	54	0.0	B	5.1	C	10.4	B	22.4	B	8.0	B	7.4	53
2	1-2号棟	559.00	RC	S46	47	54	0.0	B	5.1	C	10.4	B	22.4	B	8.0	B	7.4	53
3	2号棟（プール専用附属室）	127.00	S	H29	38	8	15.8	A	6.8	A	23.0	A	29.8	A	10.6	A	9.8	96
4	3号棟（プール専用附属室）	15.00	S	H29	38	8	15.8	A	6.8	A	23.0	A	29.8	A	10.6	A	9.8	96
5	4号棟（プール専用附属室）	34.00	S	H29	38	8	15.8	A	6.8	A	23.0	A	29.8	A	10.6	A	9.8	96
6	5号棟（体育館）	1,052.00	RC	S49	47	50	0.0	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	60
7	7号棟（給食倉庫）	7.00	S	S49	38	50	0.0	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	60
8	8-1号棟	1,770.00	RC	S49	47	50	0.0	B	5.1	C	10.4	B	22.4	B	8.0	B	7.4	53
9	8-2号棟	720.00	RC	S49	47	50	0.0	B	5.1	C	10.4	B	22.4	B	8.0	B	7.4	53
10	9号棟	752.00	RC	S49	47	50	0.0	B	5.1	C	10.4	B	22.4	B	8.0	B	7.4	53
11	10号棟	587.00	RC	S53	47	46	0.4	B	5.1	C	10.4	B	22.4	B	8.0	B	7.4	54
12	11号棟（教材庫）	44.00	S	S53	38	46	0.0	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	60
13	12号棟（給食室増築部分）	49.00	S	S53	38	46	0.0	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	60
14	13号棟（印刷室）	16.00	S	S53	38	46	0.0	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	60
15	14号棟	1,250.00	RC	S54	47	45	0.9	B	5.1	C	10.4	B	22.4	B	8.0	B	7.4	54
16	15号棟（教材室）	36.00	S	S54	38	45	0.0	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	60

03. 各小学校施設の状況（上牧第三小学校）

屋根については、一部屋上面の劣化、損傷はあるものの、概ね良好な状態を維持しています。ただし、一部に施されているトップライトについては、経年劣化がみられ、雨漏りが頻繁に発生しています。外壁については、特定建築物定期調査において一部モルタルにクラックが確認されています。内部仕上げについては、建具に劣化がみられるものの、平成30年度の空調設備整備工事の実施等の影響により、B評価が多くなっています。電気設備、機械設備ともに大きな劣化はみられません。

（単位：㎡、年度、年）

通番	建物（棟）名称	延床面積	構造	建築年度	耐用年数	経過年数	評価点											合計
							経過年数	部位部外による評価点										
								屋根	外壁		内部仕上げ		電気設備		機械設備			
1	1号棟（体育館）	1,000.00	RC	H08	47	28	8.1	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	68
2	2号棟	2,071.00	RC	H09	47	28	8.1	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	68
3	3号棟	1,703.00	RC	H09	47	28	8.1	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	68
4	4号棟	876.00	RC	H09	47	28	8.1	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	68
5	5号棟（プール専用付属室）	147.00	RC	H09	47	28	8.1	C	3.1	C	10.4	C	13.4	B	8.0	B	7.4	50
6	6号棟（体育倉庫）	31.00	S	H09	38	28	5.3	B	5.1	B	17.3	B	22.4	B	8.0	B	7.4	66

04. 維持管理に関する考え方

小学校施設においては、児童等の安全面を確保するとともに教育環境の充実を図るに当たり、老朽化が進行している状況を踏まえ、適切かつ計画的な対応が求められています。

これまでの施設管理では、経年劣化や損傷などの大規模な不具合が生じたあとに修繕・改修等を行う「事後保全」の対応をとってきました。しかし、同時期に建築された上牧小学校・上牧第二小学校の校舎棟においては、程度の違いはあるものの、安全面に関わる躯体の老朽化が同じように進んでいる状況であり、財政状況等を踏まえた対応が求められるなかで喫緊の課題となっています。

施設の維持管理コスト

小学校の施設の維持管理（人件費・給食賄材料費等は除く）に要する年間コストは過去5年間平均で約1億円（3校）要しています。その他、トイレ改修工事、校内通信ネットワーク工事、自動水栓改修工事、体育館空調機整備工事などの教育施設全体を対象としたその他工事（単純工事費のみ）として5年間平均で1億円別途発生しています。

教育費関係年度別内訳一覧表（小学校管理費・施設整備関係抜粋）

（単位：円）

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均
小学校管理費（会計年度任用職員人件費・賄材料費・加工委託料除く）	145,716,474	77,333,210	92,533,643	108,141,587	80,459,957	100,836,974
その他工事	251,256,749	24,460,000	0	233,299,000	0	101,803,150

04. 維持管理に関する考え方

長寿命化とメンテナンスサイクル

学校施設の維持管理のあり方については、学校施設を総合的観点でとらえ、従来のような「事後保全」的な手法ではなく、損傷が軽微である早期段階から予防的な修繕・改修を実施する「予防保全」の手法である「長寿命化」改修を進めるとともに、効果的かつ効率的な整備周期（メンテナンスサイクル）を構築することで、学校施設の整備・維持管理にかかる中長期的なトータルコストの縮減や財政負担の平準化、人員配置の適正化を図ることが望ましいとされています。

持続可能な行政運営のもと、財政負担の軽減を図りながら、計画的な機能回復あるいは時代のニーズに応じた機能向上、教育環境の質的改善に取り組むことが求められています。

施設整備の種類

メンテナンスサイクルの構築に当たり、長寿命化を図る上では、経常的な維持管理とあわせて、以下の施設整備が必要になると考えられます。

① 大規模改造（機能回復）

既往の機能を維持し、経年等により劣化した外装（屋根・外壁）、内装、電気設備、機械設備の改修・更新により、施設全般の老朽化改善を図る改修。

② 長寿命化改修（機能回復＋機能向上）

構造躯体の耐用年数を延伸させるための工事（コンクリートの欠損補修、中性化対策等）を行い、施設の長寿命化を図る改修。また、大規模改造と同様の老朽化改善（機能回復）に加え、時代とともに変化する新たな学習内容・学習形態、社会・生活環境の変化に対応するための環境整備（機能向上）も含まれる。

③ 改築（建替）

既存校舎を解体し、新たに校舎等の施設を建築。

04. 維持管理に関する考え方

メンテナンスサイクルの周期

文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引（平成27年4月）」によると、**適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度**、さらに、技術的には100年以上**持たせるような長寿命化も可能であるとされています。**従来は、耐用年数である47年を目安に改築することが一般的でしたが、**現在では、メンテナンスサイクルを構築し、適切な維持管理（大規模改造・長寿命化）を実施することで、使用目標年数を「80年」に設定する事例が増えています。**

メンテナンスサイクルの構築に当たり、奈良県立学校では以下の表を目安にされています。

部位・設備等		主な改修工事	同時に措置したほうがよい部位・設備等	更新・改修周期の目安
外装	屋上・屋根	防水改修	排水溝（ルーフトレン）、笠木、屋上手すり、設備架台、断熱材	20～30年
	外壁	仕上げ改修（塗装、吹付、タイル補修等）	シーリング、笠木、樋、断熱材	15～30年
		クラック補修、浮き補修	シーリング、外部建具、笠木	10～15年
		建具改修（サッシ、カーテンウォール等）	シーリング、外部建具	約40年
内装	建具改修（可動間仕切り含む）	—	—	30年
	床材、ボード材	—	—	30年
	壁塗装	—	—	20年
	トイレブース	—	—	8年（修繕）
	ブラインド、造付け家具等	—	—	20年
電気設備	受変電設備改修	受電キュービクル、非常用発電機、照明、放送、自動火災報知機	25～30年	
機械設備	空調設備	冷暖房設備改修、熱源改修	15～20年	
	給排水設備	ポンプ、受水槽配管、冷温水管等	15～30年	

※「公共建築の部位・設備の特性等を踏まえた中長期修繕計画策定及び運用のためのマニュアル（平成17年6月）」抜粋
「更新・改修周期の目安：平成17年度版建築物のライフサイクルコスト（財団法人建築保全センター）」参照

05. 将来の見通し

実施時期・費用

施設整備の実施時期、費用については、先述の部位・設備の更新・改修時期の目安や他自治体の事例から、以下のとおり見込む必要があります。

整備類型	実施時期	想定費用	備考（奈良県立学校の考え方）
大規模改造	築20年以降、築60年以降を目安	建築単価の25%	2回実施
長寿命化改修	築40年以降を目安	建築単価の60%	<u>築50年以降の建物については、効果が見込めない</u>
改築（建替）	築80年以降を目安	建築単価の100%	大規模改造及び長寿命化改修を実施しない場合は、 <u>築60年以降を目安に改築（建替）を検討</u> とする

建築単価（1㎡あたり）

項目／年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
建築単価	232,200円	306,800円	331,700円	347,200円	369,400円	389,800円	413,000円	436,600円	462,000円	488,600円
対前年度比増減率	-	132.1%	108.1%	104.7%	106.4%	105.5%	106.0%	105.7%	105.8%	105.8%

※ 令和8年度以降の建築単価については、増減率は過去2年間の平均値をもとに算出

05. 将来の見通し

今後の維持管理コスト

小学校3校の校舎等の維持管理コストとして、以下の費用が見込まれます。（単純工事費のみ、設計、工事監理業務等の委託料、別途工事費は含まない）

（単位：㎡、千円）

学校名	長寿命化改修	延床面積	項目・年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度	令和17年度	令和18年度	令和19年度	
上牧小学校	×	7,723	建築単価（予測）	369,400	389,800	413,000	436,600	436,600	462,000	488,600	516,800	546,500	577,900	611,100	646,200	
			築年数（※）	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	
			維持管理	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612
			その他工事	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967
			大規模改造（25%）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			長寿命化改修（60%）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			改築（建替）（100%）	0	0	0	0	1,284,489	3,169,705	0	0	0	0	0	0	0
			解体	0	0	0	0	0	0	0	1,074,000	0	0	0	0	0
小計				50,580	50,580	50,580	50,580	1,335,069	3,220,284	1,124,580	50,580	50,580	50,580	50,580	50,580	
上牧第二小学校	×	8,756	築年数（※）	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	
			維持管理	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612
			その他工事	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967
			大規模改造（25%）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			長寿命化改修（60%）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			改築（建替）（100%）	0	0	0	0	1,456,298	3,593,673	0	0	0	0	0	0	0
			解体	0	0	0	0	0	0	0	1,074,000	0	0	0	0	0
			小計				50,580	50,580	50,580	50,580	1,506,877	3,644,252	1,124,580	50,580	50,580	50,580
上牧第三小学校	未実施	5,828	築年数（※）	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
			維持管理	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612	33,612
			その他工事	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967	16,967
			大規模改造（25%）	0	681,527	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			長寿命化改修（60%）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,867,237
			改築（建替）（100%）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			解体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計				50,580	732,106	50,580	50,580	50,580	50,580	50,580	50,580	50,580	50,580	50,580	2,917,816	
合計				151,739	833,265	151,739	151,739	2,892,526	6,915,116	2,299,739	151,739	151,739	151,739	151,739	3,018,975	

（※）建築年度が最も古い棟の築年数を記載。

05. 将来の見通し

学校施設の維持管理コストの増大

上牧小学校、上牧第二小学校については、大規模改造（平成25年度、平成26年度）は行っているものの、長寿命化改修工事は行っておらず、すでに築年数が50年以上経過していることから、長寿命化改修を実施しても効果が見込めない校舎である。児童等の安全、教育環境の質の確保の観点から、築60年を経過するタイミングで改築（建替）を検討することが望ましいと思われる。

しかしながら、改築（建替）には莫大な費用を要する（例：上牧中学校の統合事業の総事業費は約50億円の見込み）ことに加え、同時期に整備をしているため、改築（建替）時期も重なる見込みであり、両校の校舎を改築（建替）することは極めて困難な状況である。さらに、近年の物価・人件費の高騰の影響で、建築単価が年々上昇しており、将来に先送りすることで、財政負担はさらに厳しいものとなることが予想されている。

一方、上牧第三小学校については、築年数は28年であるが、これまで大規模改造を行っておらず、長寿命化の措置はとっていない。今後、使用年数80年を目標として維持管理する場合、早急に大規模改造を行い、築40年を経過するタイミングで長寿命化改修を行う必要があるが、改築（建替）と同様に大きな事業費を要する。

上牧町公共施設総合管理計画の方針

平成29年3月に策定した「上牧町公共施設総合管理計画」では、今後40年間で公共施設の総延床面積を20%縮減することを目標に掲げている。学校施設についても、児童生徒数の減少にあわせて、将来的な集約化等について検討することが求められている。

06. 総括

上牧小学校

項目	内容
築年数	53年（年度単位では54年）
施設の老朽化状況	すべての項目において健全度が低く、 <u>かなり深刻な状況である。</u>
長寿命化対応	築年数が50年を経過（築53年）しており、 <u>長寿命化の効果は見込めない。</u>
改築（建替）	安全面、教育環境の質の確保の観点から、 <u>築60年時（令和13年度）を目途に検討する必要がある。</u>
維持管理コスト （R8～R19）	約61億円
その他懸念事項	<ul style="list-style-type: none">・ プールが老朽化により使用不可。・ 来客用の駐車場がなく、保護者の送迎対応に支障をきたしている。・ 下水道未接続。

06. 総括

上牧第二小学校

項目	内容
築年数	54年
施設の老朽化状況	健全度は比較的良好であるが、外壁の爆裂が頻発するなど、 <u>躯体についてはかなり深刻な状況である。</u>
長寿命化対応	築年数が50年を経過（築54年）しており、 <u>長寿命化の効果は見込めない。</u>
改築（建替）	安全面、教育環境の質の確保の観点から、 <u>築60年時（令和13年度）を目途に検討する必要がある。</u>
維持管理コスト （R8～R19）	約67億円
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none">・ プールは平成29年度に改築済み。・ 来客用の駐車場がなく、保護者の送迎対応に支障をきたしている。

06. 総括

上牧第三小学校

項目	内容
築年数	28年
施設の老朽化状況	建築以来、大規模改造を行っておらず健全度は低いが、 <u>躯体については比較的良好である。</u>
長寿命化対応	県立学校同様、 <u>長寿命化による長期使用（80年）を目標とする場合は、早急に大規模改造を実施するとともに、築年数が40年を経過するタイミング（令和19年度）に長寿命化改修、築年数60年のタイミング（令和39年度）にも大規模改造を行う必要がある。</u>
改築（建替）	安全面、教育環境の質の確保の観点から、 <u>築80年時（令和59年度）を目途に検討する必要がある。</u>
維持管理コスト （R8～R19）	約42億円
その他特記事項	特になし